

全国港湾運動方針(案)、基調と基本的課題 積年の労使課題解決に向け、大会で議論を!

全国港湾第一回定期大会は、九月十九日(水)から二十日(木)にかけて「シーパレス日港福」に於いて開催されます。このほど定期大会に提出される議案書が、常任中央執行委員会、中央執行委員会の議論を経て作成されました。

提出議案は、第一号議案「二〇一七年度主要取り組み」から始まり、第二号議案「二〇一八年度運動方針(案)」、第三号議案「産別ストライキ権の確立について(案)」、第四号議案「全国港湾規約、旅費規程の改正について(案)」、第五号議案「二〇一七年度決算報告及び二〇一八年度予算(案)」からなり、一八年秋年末における具体的活動方針について(案)も提起されています。

運動方針案の運動の基調と基本的課題では、私たちがを取り巻く情勢とこの間の到達点をふまえ、同時に、産別運動の前提、産別労使協議体制を確固としたものとするための「独禁法問題」を克服する「運動を一体的に進める立場で、一八年度は、次の基調と基本的課題を掲げて港湾産別運動の前進を期することとする」として「労使継続課題」「積年の労使課題」を著実に解決していく取り組み、②政府、船社、荷主が一体的に推進する体制的「合理化」とたたかう、③中央・単組・地区港湾の相互尊重、「統一要求・統一行動」を軸に「足元強化」の徹底を通じて、産別組織の強化・拡大を図る、④ITに団結し、国際連帯活動のさらなる前進を図る、⑤国民的諸課題に関して、その課題が港湾労働者にとって、どのような問題かを鮮明にし、国民

全国港湾第一回定期大会は、九月十九日(水)から二十日(木)にかけて「シーパレス日港福」に於いて開催されます。このほど定期大会に提出される議案書が、常任中央執行委員会、中央執行委員会の議論を経て作成されました。

提出議案は、第一号議案「二〇一七年度主要取り組み」から始まり、第二号議案「二〇一八年度運動方針(案)」、第三号議案「産別ストライキ権の確立について(案)」、第四号議案「全国港湾規約、旅費規程の改正について(案)」、第五号議案「二〇一七年度決算報告及び二〇一八年度予算(案)」からなり、一八年秋年末における具体的活動方針について(案)も提起されています。

運動方針案の運動の基調と基本的課題では、私たちがを取り巻く情勢とこの間の到達点をふまえ、同時に、産別運動の前提、産別労使協議体制を確固としたものとするための「独禁法問題」を克服する「運動を一体的に進める立場で、一八年度は、次の基調と基本的課題を掲げて港湾産別運動の前進を期することとする」として「労使継続課題」「積年の労使課題」を著実に解決していく取り組み、②政府、船社、荷主が一体的に推進する体制的「合理化」とたたかう、③中央・単組・地区港湾の相互尊重、「統一要求・統一行動」を軸に「足元強化」の徹底を通じて、産別組織の強化・拡大を図る、④ITに団結し、国際連帯活動のさらなる前進を図る、⑤国民的諸課題に関して、その課題が港湾労働者にとって、どのような問題かを鮮明にし、国民



連日の猛暑が続くなか、七月二十五日(水)十八時三十分から、全水道会館(東京都、水道橋)に於いて、土砂で辺野古に運ぶな!本土からの特定外来生物「八ヶ月土砂投入ストップ!首都圏集会」が、辺野古土砂搬出反対!首都圏グループの主催で開催された。

集会は、辺野古の海を土砂で埋めるな!首都圏連絡会が主催、「止めよう辺野古埋立」国会包囲実行委員会が協賛し、埋め立て土砂の搬入・搬出反対に賛同する二〇名余りの参加者であふれ返った。全国港湾野古新基地建設反対の取り組み経緯と経過を報告し「米軍基地はいらない、共に頑張ろう。」などと激励の挨拶を述べた。

その後、集会のまとめと行動の提起を行い、土砂で辺野古に運ぶな!本土からの特定外来生物「沖縄県・土砂条例」を有効性あるものに改正し、沖縄と本土の連帯で埋め立て土砂の搬入・搬出を阻止しよう!を表明した集会決議を確認した。

辺野古・大浦湾は、シュゴン、ウミカメ、サンゴ類などの海洋生物が生息する豊かな海であり、沖縄県外からの土砂の大量移動がアルゼンチンアリ、ヒアリ、ハイイロゴケクモ、オオキケンケイキクなどの特定外来種の混入・移動を伴い、沖縄固有の生態系と環境に破壊的打撃をあたえ、取り返しがつかないことになってしまおうと指摘されている。

準備を進め、また、可能な限り職場オルグの日程などを配慮した準備を進める、②方針案と要求案は、秋末闘争を全力でたたかひ、その到達点に立つて考え方を整理していく、③たたかひを含め、「統一要求」と「統一行動」の産別春闘構築の一九春闘の準備について

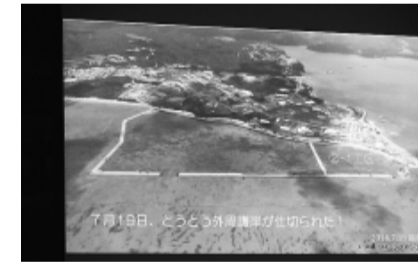
準備を進め、また、可能な限り職場オルグの日程などを配慮した準備を進める、②方針案と要求案は、秋末闘争を全力でたたかひ、その到達点に立つて考え方を整理していく、③たたかひを含め、「統一要求」と「統一行動」の産別春闘構築の一九春闘の準備について

連日の猛暑が続くなか、七月二十五日(水)十八時三十分から、全水道会館(東京都、水道橋)に於いて、土砂で辺野古に運ぶな!本土からの特定外来生物「八ヶ月土砂投入ストップ!首都圏集会」が、辺野古土砂搬出反対!首都圏グループの主催で開催された。

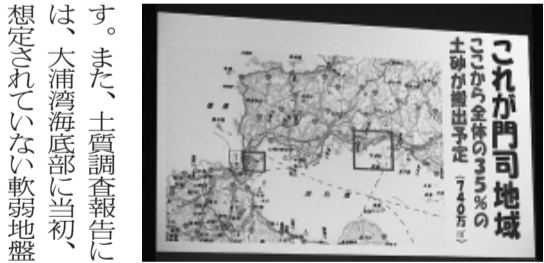
集会は、辺野古の海を土砂で埋めるな!首都圏連絡会が主催、「止めよう辺野古埋立」国会包囲実行委員会が協賛し、埋め立て土砂の搬入・搬出反対に賛同する二〇名余りの参加者であふれ返った。全国港湾野古新基地建設反対の取り組み経緯と経過を報告し「米軍基地はいらない、共に頑張ろう。」などと激励の挨拶を述べた。

その後、集会のまとめと行動の提起を行い、土砂で辺野古に運ぶな!本土からの特定外来生物「沖縄県・土砂条例」を有効性あるものに改正し、沖縄と本土の連帯で埋め立て土砂の搬入・搬出を阻止しよう!を表明した集会決議を確認した。

辺野古・大浦湾は、シュゴン、ウミカメ、サンゴ類などの海洋生物が生息する豊かな海であり、沖縄県外からの土砂の大量移動がアルゼンチンアリ、ヒアリ、ハイイロゴケクモ、オオキケンケイキクなどの特定外来種の混入・移動を伴い、沖縄固有の生態系と環境に破壊的打撃をあたえ、取り返しがつかないことになってしまおうと指摘されている。



7月18日、とうとう38年連続が止まりました



これが門司地域
 ここから全体の35%の土砂が搬出予定 74万トン



現場では、外周護岸工事も終了し、沖縄防衛局が八月十七日にも辺野古海域に土砂を投入すると通告、沖縄県知事は軟弱地盤の危険性や環境保全処置の不履行を理由に辺野古海域に

土砂が投入される前に埋め立て承認の撤回を表明したところでした。しかし、報道で発表された通り、八月八日、翁長知事は志半ばで病に倒れられ、逝去されました。

八月十一日に沖縄で開催された辺野古新基地建設断念を求める県民大会には六万五千人余の人々が集結し、翁長知事の遺志を引き継いでいくことが改めて呼びかけられています。

九月三十日には沖縄県知事選挙がおこなわれることが決まりました。沖縄の将来にとって、日本の将来にとって大変重要な意味を持つ選挙であると思います。

一九九六年に辺野古が普天間基地の移転先とされ二十余年、いま、新基地建設された主要七ヶ国首脳会議では、プラスチックごみ削減の数値目標を求める「海洋プラスチック憲章」が採択された。しかし、プラスチックごみ発生量世界一、二位の米国と日本は憲章に署名せず、世界中から批判された▼現在、日本の政府は使い捨てプラスチック製品などの総合戦略を検討しているが、消費者としても大幅削減に向けた生活スタイルを考えたいと思う。

シャモ樽

夏休みに海へ海水浴に行ったら人も多と思うが、今、海ではプラスチックごみによる海洋汚染が深刻化している▼現在、約一億五千トン以上のプラスチックごみが世界の海を漂っており、しかも毎年約八〇〇万トンが流れ込んでいる▼海中を漂うプラスチックごみは回収が難しく、分解にも時間がかかる。また、プラスチックごみを体内に取り込んでしまった多くの海洋生物が被害を受けている実態もある。今年二月には、スペインの海岸に漂着した体長約一〇メートルのマッコウクジラの死骸から、約三〇キロのプラスチックごみが見つかった。こういったことにより、魚介類を通じて人への健康被害も心配されている▼いま、世界的にはレジ袋やストロー、カップなど使い捨てプラスチック容器を禁止にする動きが急速に強まっている。今年六月に開催された主要七ヶ国首脳会議では、プラスチックごみ削減の数値目標を求める「海洋プラスチック憲章」が採択された。しかし、プラスチックごみ発生量世界一、二位の米国と日本は憲章に署名せず、世界中から批判された▼現在、日本の政府は使い捨てプラスチック製品などの総合戦略を検討しているが、消費者としても大幅削減に向けた生活スタイルを考えたいと思う。